

# 血液内科研修

## 血液内科ローテーション研修目標

血液疾患の鑑別診断能力および悪性血液疾患の抗がん剤主体の治療法を身につけ、感染症を中心とする多種多様な合併症の早期発見と適切な対処法を習得する

### 経験すべき診察・検査・治療法

1. 診察により身体所見を正確に把握する
  - ① 肝脾腫大、扁桃腫大、リンパ節腫大（部位と数、大きさ）
  - ② 出血傾向（皮膚・粘膜等）
  - ③ 感染症徴候の早期発見
  
2. 検査により迅速かつ正確な状況判断をする。（診断・治療方針）
  - ① 各血球の増多、減少の認識と末梢血液像の解釈ができる
  - ② 骨髓穿刺（主に腸骨）の実施ができ、結果の解釈ができる  
（塗抹所見、組織診、細胞表面マーカー、染色体、FISH、遺伝子検査）
  - ③ 腰椎穿刺の実施ができ、結果の解釈ができる
  - ④ リンパ節、腫瘍生検の結果の解釈ができる。  
（塗抹所見、組織診、細胞表面マーカー、染色体検査、FISH、遺伝子検査）
  - ⑤ 感染症の存在に常に留意し必要に応じ各種培養検査を提出し結果を解釈できる  
血液培養、尿培養、咽頭培養、便培養等
  - ⑥ 胸水、腹水等の穿刺ができ、結果の解釈ができる  
（腫瘍性、感染性、その他の鑑別ができる）
  
3. 経験すべき“鑑別診断が必要な血液学的異常の病態”とその対応  
患者の症状と身体所見、簡単な検査所見により鑑別診断、初期治療を的確に行えるようになるために以下の病態を経験する
  - ① 汎血球減少について鑑別診断できる
  - ② 白血球増多・減少について鑑別診断できる
  - ③ 血小板増多・減少について鑑別診断できる
  - ④ 各種貧血について鑑別診断できる
  - ⑤ 出血傾向・凝固検査異常について鑑別診断できる

#### 4. 経験すべき疾患

患者の症状と身体所見、簡単な検査所見より鑑別診断、初期治療を的確に行えるようになるために以下の疾患を経験する

- ① 白血病
- ② 悪性リンパ腫
- ③ 多発性骨髄腫
- ④ 骨髄異形成症候群
- ⑤ 各種貧血疾患
- ⑥ 出血性疾患

#### 5. 治療 主に血液悪性腫瘍の治療上の必要事項を体得する

- ① 抗がん剤の使用法（種類、投与量、間隔）と有害事象への対策（予防、治療）がわかる
- ② 適切に抗生剤・抗真菌剤等を使用でき、使用に関連した有害事象を認識し対処できる  
また、必要な薬剤の血中濃度モニタリングができる
- ③ 好中球減少時の支持療法の施行ができる（無菌室対応、G-CSF 投与等）
- ④ 貧血、血小板減少に対し輸血の適否について判断しオーダーできる
- ⑤ 副腎皮質ホルモンの適切な使い方ができる